

「インターネットは頼れるパートナー」

1 グループワーク「インターネットについての“考え”“感じ”“経験”」

インターネットは通信手段としても、情報収集手段としても、情報発信手段としても役に立つシステムである。インターネットのしくみを正しく理解して活用すれば、大学生活の質を高め、楽しく過ごすことができる。しかし、使い方を誤ると厄介なことになる場合もある。大学生となった今の時点で、インターネットというシステムについてどのように考え、どのように感じているのか、また、(もしあれば)どのような経験をしたのか、を整理してみよう。そして、ここで整理したものごとが、このコースを終えるとき、進級するとき、どのように変わって行くかを見て行こうではないか。

2. E-mail (電子メール)

コンピュータネットワークを使用してメッセージを交換する手段。以下に、知っておくとよい情報を挙げておく。

大学ドメインのメールアドレスを活用せよ:形式が ○○@○○.kitasato-u.ac.jp となっているアドレスは、北里大学の関係者しか手に入れることのできない、北里大学が発行するものである。実習、研究、そして就職活動などで学外の人に連絡する際、北里大学のメールアドレスを使うことによって、**北里大学に所属する者として連絡をとっている姿勢**を明らかにすることができる。また、大学から送信されるメールは、迷惑メールと勘違いされる確率も低い。コンピュータに向かう習慣の無い者は、1年生のうちから携帯電話に転送設定しておき、大学のアドレス宛てに送られてくるメールを逃さない状態にしておくこと。

CC の使い方:あるメッセージを A さんに届けたい場合には、宛先入力欄に A さんのアドレスを入力する。その内容を念のために B さんにも送っておきたい、という場合には、宛先入力欄ではなく **CC 入力欄**に B さんのアドレスを入力する。このとき、あなたが A さんに届けるメッセージは B さんにも同時に届く。そしてそのことが A さんにもわかる。原則としてメールを受け取った A さんは、あなたに対して返信するのが基本だが、**CC** としてメールを受け取った B さんは基本的にあなたに返信しないものである。

BCC の使い方: CC と BCC は似ているが使い方が違う。あなたが A さんにメールを送るとき、**BCC 入力欄**に B さんのアドレスを入力しておくと、メールは A さんと B さんに届く。しかし、A さんには、あなたが送ったメールが B さんにも届けられている

ことはわからない. ここを間違えると人間関係が崩壊することがあるので要注意. BCCで送られて来た内容を Bくんが Aくんに伝えたりすると, あなたと Aくんの人間関係は崩壊することだろう. BCCで送られてきた内容は口外してはならない.

互いに面識の無いものどうしを宛名入力欄に並べて一括送信してはいけない: E-mailアドレスも個人情報のひとつである. 当人の許可なしに第三者に教えてはいけない. 同じ内容のメールを複数の人に送ろうと思って, 宛名入力欄にアドレスを並べると, そのメールを受信した全ての者に全員のアドレスが知れ渡ってしまう. どうしても一括送信したい時には, 宛名入力欄には自分のアドレスを入力しておき¹, BCC欄にアドレスを並べておけばよい. そして本文中に「一斉送信するために BCC 経由でお送りします」とでも書いておけばよい.

複数のトピックをひとつのメールにまとめてはいけない: 一通のメールに対しては一通のメールで返答すること. 同一人物から別々に送られて来た「会議日程決め: 都合のよい日をお知らせください」と「新しく買うテーブルの色は何色がいいでしょうか」に対して一通にまとめて返事してはいけない. **集計作業の妨害**になる. そういうことをやるヒトは信頼されない.

タイトルをつけること: メールを読んでもらいたければ, 何についてのメールなのかがわかるようにしておくこと. たとえばあなたが学習塾を運営していて, 中学生向けの数学講師を募集することにしよう. 申し込みのメールがドッサリと届く. まずはメールのタイトル一覧をみて, それから本文を読む. あなたは次のメールのうち, どれから先に読むだろうか?

「(件名なし)」	← あとまわし
「〇〇学習塾様」	← あとまわし
「数学」	← 一応, 読む
「古典」	← 絶対に読まない
「中学生向け数学講師への応募(北里大学1年・南里芝子)」	← 最初に読む

人間は忙しい. とりあえず**タイトルから中身のわかるメッセージ**から開けて読むことだろう. 件名なし, などというメールは開けられることなくゴミ箱行きである.

3 ソーシャルネットワークサービス (SNS)

人と人とのつながりをインターネット上で組み立てるしくみ. いろいろなサービスがあるが, 今回は以下の4点について紹介する. いずれも無料である. 実際に会員になって使っ

¹ 送信元と送信先に同じアドレスが使われている場合, メールサーバーに負荷をかけるので, このやりかたを推奨していない組織もある.

てみればしくみがよくわかる。すでに会員になっている人に教わるのが手っ取り早い。北里大学では SNS の積極的な利用を推奨している。

3.1 Twitter ・ ・ ・ ・ ・ <http://twitter.com>

「タイトルなし，本文文字数 140 字まで」のメッセージを投稿できる。それに対して返事を出す(リプライ)，それを転送(リツイート)する，などの反応ができる。誰の投稿を読みたいかは自分で選べる。匿名でも実名でも OK。特定の利用者からの投稿を受け付けない機能もある。Twitter をまだ利用していない者には**利用を強く推薦する**。北里大学関係でも Twitter による情報を発信している。アメリカ発。

北里大学公式 ID <http://twitter.com/KitasatoUniv>
有隣堂北里大学売店 <http://twitter.com/KitasatoYurindo> 入荷情報とか
海洋生命科学部ミニ水族館 <http://twitter.com/aqualabostaff>
北里キャンパスナビゲーター <http://twitter.com/KitasatoNavi>
北里祭 info http://twitter.com/kitasato_fes

3.2 Facebook ・ ・ ・ ・ ・ <http://www.facebook.com>

現実の人間関係をインターネット上でも維持することを前提にしたシステム。匿名利用不可。情報公開範囲を限定できる(友人まで，とか，友人の友人まで，とか)。アメリカ発。

3.3 Google+ ・ ・ ・ ・ ・ <http://www.plus.google.com/>

Google の各種サービスと連動した SNS。アメリカ発。

3.4 LINE ・ ・ ・ ・ ・ <http://line.naver.jp/ja/>

特定の個人，あるいはグループに対してメッセージを送ることができる。また，スマートフォンや携帯電話で無料通話ができる。日本発。

4 インターネット掲示板

説明省略。書かれている内容がどの程度信頼できるものなのかは，自分で判断すること。情報源としてインターネット掲示板を使うのであれば，そこに記されている内容がどこから引用されてきたものなのかを確認すること。「インターネット掲示板に書かれていたから～」というのはダメ。

4.1 2ちゃんねる ・ ・ ・ ・ ・ <http://www.2ch.net>

匿名掲示板。トピックごとに細かく分けられた掲示板が集まったシステム。匿名利用可能。匿名だが，運営側は投稿元に関するある程度の情報を手に入れることができる。また，大学から書き込んだ場合には大学にバレるものと考えておくこと。つかまるようなことは書かない。バレたら困ることは書かない。

4.2 みんなのキャンパス <http://campus.nikki.ne.jp/>

大学/学部/学科ごとに履修科目の内容とか試験対策とかのクチコミを書き込める掲示板。

4.3 Yahoo!知恵袋 <http://chiebukuro.yahoo.co.jp/>

さまざまな質問を投稿すると、それに対して誰かが答えてくれるかもしれない、という情報交換の場。答えが必ず正しいという保証はない。また、答えてもらったらお礼を忘れずに、書き込むためには ID をとりログインする必要があるが、過去の質問と回答を読むだけならその必要はない。

5. インターネットのパワーを借りよう

5.1 これまでの悪しき習慣

高校までの小論文とかレポートとかを振り返ってみてほしい。図書館に行ってアレコレと本を引っ張り出してきて、ああでもないこうでもない、という感じに苦しみ、メ切ギリギリになって調べた内容を原稿用紙に書きなぐって提出してセーフ、という経験をもつ者は珍しくないだろう。課題提出までの全労力のうち、情報を探すことに 9 割程度を使っていなかったらどうか？もし、自分が欲しい情報がどこにあるのかが分かっていたら、この労力は大幅に削減できたことだろう。それを実現してくれるしくみが、インターネットである。

たとえば 10 日間でレポートを一つ仕上げるとしよう。情報を集め、集めた情報をまとめ、まとめた情報を元に自分自身の頭で考える、という流れがレポート課題に取り組む意義である。この流れの中でもっとも重要な部分は、あなたにしかできない**自分自身の頭で考える**ところである。だから、ここにもっとも多くの労力を注ぐべきなのである。一日もはやく情報集めを切り上げ、考えることに時間をかけるべきなのである。

しかし、現実には資料をアレコレと探し集めることに 10 日間のうちの 9 日程度を消費してしまい、メ切前日にやっつけ仕事をする、ということが珍しくない。これからはそのようなスタイルを卒業しようではないか。それこそ最初の 1 日で情報集めを終わらせ、メ切までの日々を考えることと、内容を洗練させることに使おうではないか。

5.2 検索エンジンを使う

ここで頼れるしくみが検索エンジンである。代表的なシステムは Google である。

<http://google.co.jp>

まずは自分の知りたい情報をあらわすキーワードを検索窓に入力してみよう。検索エンジンが「有用である」と判断したものから順にリストを提示してくれる。この中から興味をもった情報を読んでみよう。

ここで情報探しは終わりにならない。その情報とは異なる視点で書かれた情報も存在することだろう。それを探してみる。自分の考えに合うものだけを都合よく見つけてきて自分の考え方を正当化することに使ってはいけない。かならず異なる意見にも目をとおし、自分の考えを検証することが重要である。

5.3 コピペはだめ

検索で見つけてきた記事をそのままコピー&ペーストしてレポートにする、というのはダメである。自分の頭を使っていないからである。また、これは著作権を侵害する行為でもある。インターネット上から見つけてきた情報を何らかのかたちで利用するのであれば、どこから得た情報なのかを正しく引用する必要がある。引用の方法については、実験レポートの書き方を扱う回に解説する。

6 情報源を確かめに行け!

さまざまな情報をまとめて書かれている記事がインターネット上にはたくさんある。わかりやすく書かれていたり、興味をひくかたちで書かれていたりすると、その内容がすべて信頼できるものだと思ってしまうことも珍しくない。どのような記事であれ、その記事の元になっている情報を確かめに行くこと。アヤシイと思ったら立ち止まってよく考えること。思考停止しないこと。

インターネットでは高速に情報が伝播する。伝播の速度に内容の正確さと信頼性は関係しない。何か情報を得た際には、その情報源を確かめに行くことが重要である。

□